

## かやぶん新体制発足

去る5月24日、平成28年度定期会員総会が開催され、任期満了に伴う役員の変更が行われました。新役員は次のとおりです。

茅ヶ岳歴史文化研究所 新体制	
理事長	遠藤 均 (再任)
副理事長	功力 司 (新任)
理事	柴山 裕子 (再任)
	厚芝 金夫 (再任)
	輿水 幸人 (新任)
	伊東 典雄 (新任)
監事	小泉 美津夫 (再任)

新役員を代表して遠藤理事長からお言葉をいただきました。

### 《新理事長挨拶》

この度の役員改選にあたり、理事長の職に就くことになりました遠藤均と申します。

歴代の役員や事務局の皆様、それに会員の皆様のご努力により築いてこられた「NPO法人茅ヶ岳歴史文化研究所 (かやぶん)」を、一層発展させられるよう努力したいと思っておりますので、皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

ところで、最近、何人かの知人に「NPO法人茅ヶ岳歴史文化研究所 (かやぶん)」を知っている？ と聞いたところ「知らない」「ぜんぜん知らない」とのこと。事務所の県道に面した壁に「茅ヶ岳歴史文化研究所」と看板が設置してありますが、ぜんぜん気づいていなかった。これが現実なんだと実感しました。ただ、八代家住宅の存在とそこで時々催し物をしていることは知っておりました。受託事業の話では、子どもの頃、雨上がりの畑で土器の破片・ヤジリ・黒曜石を拾い集め

自慢し合った思い出話で盛り上がり、身近なところで太古を味わって生活していたことも改めて感じました。

これからも、これまでの活動の経験や反省を生かしながら、今まで以上に、地域の人々に「NPO法人茅ヶ岳歴史文化研究所 (かやぶん)」の存在を知ってもらい、受け入れてもらえるような活動を工夫したいと思っておりますので、ご賛同・ご助言をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、退任される旧役員の皆様、長い間ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。



新役員による上原遺跡作業風景視察の様子

## 今年度の活動予定

### ～八代家住宅イベント～

☆八代家でカマド料理体験！！  
八代家にあるカマドで火を熾し、料理をします。  
同時開催：江戸時代のおはなし

### ～かやぶん研修旅行～

☆東京都埋蔵文化財センターほか  
共に今秋開催！ 詳しくは決まり次第お知らせします。お楽しみに♪  
奮ってご参加ください。



## ＝発掘調査報告「寺所遺跡」＝

平成27年度の調査支援業務で、北杜市大泉町西井出地内に所在する寺所遺跡<sup>てらどこ</sup>の発掘調査を行いました。

寺所遺跡は、中央道長坂ICから北へ1.3kmの南向き緩斜面に立地しており、この南北にも石原田北遺跡、柳坪遺跡、窪田遺跡、寺所第2遺跡といった平安集落が密集しています。今回の調査区の南隣も発掘が2回行われており、平安時代の竪穴住居57軒、掘立柱建物3棟が見つっています。

今回の調査では、9世紀中頃～10世紀中頃までの竪穴住居29軒、掘立柱



建物56棟、土坑167基、溝6条などが見つかり、ここも平安時代の集落であったことが分かりました。竪穴住居は一辺4～6mの方形で、住居の向きや大きさによって大きく2つのグループに分けられます。2つのグループには時期差もあることがわかっており、今後の分析でさらに細分できると思われます。

出土した土器の中には「千」、「正?」、「丈」、「十」などさまざまな文字が書かれています。中でも「大伴麻呂」と人名の書かれた墨書土器が見つかり、注目されます。また24号住居からは鉄製の小尻（刀の鞘の先端に被せる金具）も出土し、刀を持った人物の存在が推察されます。

寺所遺跡の特徴は、掘立柱建物が多いことです。規模の違いや建て替えを繰り返しているものがないものがあり、それぞれに機能の違いがあったと推測されます。しかし、発掘で得られる情報は少なく、どのような役割を果たしていたのかは、明らかになりませんでした。

掘立柱建物群のなかでも特筆すべきは16号掘立柱建物です。15号住居に隣接して発見されたこの掘立柱建物は、2間×3間の構造で、一辺約1mの方形の柱穴の中に、直径約20cmの柱痕が残っていました。中央部分では浅いながらも落ち込みが確認され、総柱構造になる可能性もあり

ます。15号住居と主軸が揃い、平行して建てられていることから同時期に存在していたと推測さ



れます。他の掘立柱建物と比較しても大型で、柱の立て方も特殊なため、15号住居とともに特別な施設となっていたかもしれません。過去の調査で見つかった掘立柱建物数よりも圧倒的に軒数が多いのは何を意味するのか、建物の規模や配置から今後検討を行っていきます。

これらの遺構は浅い谷状の地形にはさまれた微高地上に散在し、調査区の南側には竪穴住居などの遺構は確認できませんでした。過去の調査区と今回の調査区の間には空白部分が認められ、遺構の分布が南北に分かれていることがわかりました。2つに集落が分かれているようにみえますが、関係性は今のところ分かってはいません。

八ヶ岳南麓にあったと想定される逸見牧との関連が推測されますが、今回の調査では手がかりは見つかりませんでした。しかし、大型掘立柱建物、小尻の出土など、周辺の遺跡にはない特徴的な遺構、遺物が検出されました。現在、発掘調査報告書の刊行に向け、整理作業を行っています。今後、近隣の遺跡を含めて逸見牧との関連性を考えるのが研究課題のひとつです。（文責 小熊）

## ＝会員募集＝

### こんなことをやってみたい人は、ぜひ！

- 歴史や文化財の研究を通じて知識を深めたい
- 活動を通じて文化財保護や活用に役立ちたい
- イベントを通じてさまざまな人と交流したい

入会金 1,000円

年会費 2,000円

### かやぶんかわら版 第80号

平成28年7月11日発行

特定非営利活動法人 茅ヶ岳歴史文化研究所

(かやぶん)

TEL/FAX 0551-45-7672

ウェブサイト <http://kayabun.web.fc2.com/>

e-mail [kayabun@hotmail.co.jp](mailto:kayabun@hotmail.co.jp)